

校長室だより

令和7年 1月16日(木)
第 36 号
十日町市立中条中学校校長室

17日はスキー授業のため16日に発行します

アメリカへの視察旅行(その1)

この間、コンピューターのデータ整理をしていたら、2002年(平成14年)にアメリカの学校を視察に行ったときのデータが出てきました。アメリカの学校を訪問し、実際に見て感じたことを思い出してみたいと思います。今はずいぶん変わっていると思います。



私は、文部科学省、新潟県教育委員会のご援助をいただき、「平成14年度教員等海外派遣研修新潟県第152団(北米団)」の一員として、2002年10月24日(金)から11月8日(金)までの16日間、アメリカ合衆国ユタ州、カリフォルニア州を訪問させていただきました。行程としては、最初の3日はユタ州ソルトレイクシティ、移動し同じユタ州のプロボに7日滞在しました。その後カリフォルニア州サンフランシスコで4日滞在しました。

プロボで小・中・高の各学校、養護学校、地区の教育委員会を訪問、視察しました。

- 保護者の皆様は、ご記憶にもあると思いますが、2001年9月11日アメリカ同時多発テロ事件が発生しました。その翌年の派遣であり、主催者側も派遣の可否についてギリギリまで悩んだと聞いています。アメリカ国内のセキュリティ強化と安全が確保されたと判断し、派遣が決定しました。
- そのためセキュリティはかなり厳重でした。ノートパソコンを持参したので、空港の入国検査ではかなり時間をかけて検査されました。靴まで脱いでチェックされたことを覚えています。ペットボトルのドリンクなどはその場で没収されました。What is your purpose? という質問に、うまく答えられなかった先生は別室に連れていかれ、様々な質問をされたそうです。かなりの時間拘束されたことを記憶しています。
- 私がアメリカにいる間に魚沼では初雪が降ったと国際電話で聞きました。しかも結構な量で。除雪のために帰国することは当然できませんでした。妻から今でも言われます。

プロボ教育委員会の視察から

教育長からプロボの教育事情について概略を伺いました。

アメリカの教育制度は、州や学区ごとに違います。プロボ区は小学校6年間、中学校(ミドルスクールと言っていました)2年間、高等学校4年間で、高校までが義務教育でした。

教育委員会の方針として、

- ・生徒達により高い教育を受けさせたい。教育委員会としても学校を積極的に訪問する。
- ・スタンダードという考え方を大切にしている。スタンダードとは最低限身に付けなければならない基礎学力。Reading(読む), Writing(書く), Math(算数・数学)である。
- ・小学校1年生から、そのスタンダードに達していなければ、留年もあり得る。しかし達成度を判断し、その生徒を落とそうというのではなく、支援してその基礎学力を身に付けさせようという考え方でいる。そのため補習等を充実させている。

- 日本では、義務教育段階では特別な事情がない限り留年はありません。アメリカではスタンダードを設定し、達成できないと補充学習を課すところが多いようです。



ファラー中学校の視察から

こちらでは Middle School と呼び、2年制の中学校でした。教育の概要説明を受け、授業見学をしました。

- ・生徒数約 540 名の学校でした。
- ・先生方がそれぞれの教室を持っており、そこに生徒が移動して授業を受けます。生徒には自分の教室がありません。廊下にロッカーが用意され、荷物はその中に入れます。登校したら教科ごとに教科の教室に移動します。
- ・制服はありません。
- ・それぞれの授業の間（休憩時間）が4分間であり、生徒は慌ただしく移動していました。日本では10分が多いですが、4分で十分であるとのことでした。
- ・始業時間も7時30分くらいからで、6時間こなしても14時過ぎには終わります。放課後は部活動などなく、地域のクラブに参加したり、塾に行ったり、ボランティアをしたり様々に過ごすと言っていました。その時期はサマータイム※期なので、早い時間からの開始でした。
- ・昼はカフェテリアで一斉に食事をします。その日のメニューは選択制でハンバーガーでした。
- ・授業はみんな同じ内容をやるのではなく、それぞれ生徒の実態に応じた課題を設定し、その課題が達成されれば、進んだ課題もこなしていました。
- ・スタンダードという考え方でそれに達していなければ、補習や夏休みの特別学習を行っている。補習については、先生方やボランティアスタッフが担っているそうです。補習を担当する教員には別にお金が支給され、それは州との補助金でまかなわれていると聞きました。

→日本の中学校とはだいぶ違いました。制服がない、自分の教室がない、休憩時間が4分しかないこと、スタンダードがあり、留年もあることなど驚く内容ばかりでした。

→教育制度は違っても、児童生徒にかける思いや基礎学力の定着に注力することなどは同じでした。

※サマータイムとは、日照時間を有効活用するために、夏の間に時計を1時間進める制度です。これにより、夕方の明るい時間が1時間長くなり、エネルギーの節約や日中の活動が増える効果があります。サマータイムは通常、3月の第2日曜日から11月の第1日曜日です。

次回は他校種の内容や視察で感じたことなどをお知らせします。

印刷では写真が不鮮明なので、ホームページでご覧ください。

